

I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

家族を命やくらしの安心とむすびつける見かたの源流は、古代ギリシャの時代にまでさかのぼることができる。

アリストテレスは『政治学』の第一卷一三章で「家政の務は無生物の財産によりも、むしろ人間に一そう留意し、またわれわれが富と呼ぶところの財産の徳によりも人々の徳に留意し、さらに奴隷のそれによりも自由人のそれに留意する」と述べた。

家政¹オイコノミアは、経済²エコノミーの語源だが、一家の生活にかかわるすべてのことがらを処理し、治めることを意味している。アリストテレスは、家とは、財産の望ましい状態よりも人間の望ましい状態を維持するための存在だと説いたのである。

人間が人間らしく生きていくための条件、命やくらしをささえることを、ここでは「家族の原理」と呼んでおこう。だが、この見かたには、いくつか注意すべき点がある。

まず、ここでいう家族とは、家と公的な領域とが区別され、性別分業がすすみ、各人を情緒的に結合させた「近代家族モデル」をさすのではない(落合恵美子『近代家族とフェミニズム』)。

むしろ家族の内側、あえていえば「母親」に押しつけられてきた命やくらしの維持という機能を、どのように社会全体に押しひろげていくのかを問いかえすものである。(①)

もう一点、世界大恐慌に多くの先進国が飲みこまれたが、その危機からいち早く脱出したのは日本、そしてスウェーデンだった(Cargill, "Monetary Policy, Deflation, and Economic History")。I 前者は、家族の原理のもとにカフチョウ制的な全体

主義国家を作りだし、後者は、同じ家族の原理のもとに社会民主主義国家を作り出した。

経済的な困難から脱出するという意味では、アメリカは劣等生だった。一方、ソビエト連邦は世界大恐慌期にも順調な経済成長を遂げた。前者であれば社会保障、後者であれば共同所有というかたちで家族の原理は展開したが、後者の歴史的限界はよく知られるところだ。

ようするに、縮減の世紀において問題となるのは、家族の原理と市場の原理のどちらが重要かという問いではもはやなく、
i、という点なのである。(②)

この問いに挑むために、ひとつのキーワードを用意しよう。家族の原理と社会との関係を考える際のカギになる「必要」である。
*3

ダニエル・ベルが強調したように、家族のなかで、食料は、一人ひとりの必要に応じて分配される。けっして貢献度や社会的な地位、所得の多寡によって分配されることはない。

資本主義、
II 近代とよばれる時代の特徴は、この必要をみだす役割が政府の財政のなかに押しこめられた一方、社会全体を「欲望」が支配するようになった点にある。

僕たちは、だれかに見せびらかすために消費をおこなう。いわゆる顕示的消費である。そしてこの欲望を刺激しながら消費需要を次々と再生産していった時代こそが資本主義、近代とよばれる時代だった(ヴェブレン『有閑階級の理論』、ガルブレイス『ゆたかな社会 決定版』)。(③)

僕たちの社会には「欲望」^Aと同時に「必要」^Bが存在する。そして、人類の歴史の大半は、この必要をどのように自らの手で充足するかという闘いだった(ポランニー『人間の経済』)。資本主義や近代とは、この必要と顕示的消費をお金でみたすある一時代をさしていたわけである。

欲望だけではなく、生きるための必要もお金でみたさなければならぬ時代には、市場経済で得られるお金の多寡が決定的な基準となり、人間の生きかた、社会の地位を決定づけることとなる。だから僕は、資本主義や近代という「欲望の時代」をさすことばを、あえて「経済の時代」と読みかえた(井手英策『経済の時代の終焉』)。(④)

ウォンツはけっして充足されることがない。高価なものを見せびらかし、だれかがそれを真似すれば、富裕層はさらに高価なものを買いためるとめる。顕示的消費とはそういうものだ。
これにたいして、ニーズは、消費をつうじて充足することができる。

たとえば、食事というニーズは、たとえソ^(イ)マツなものであっても、なんらかの食料をとればみたされるし、病気も、高い医療、安い医療さまざまであるが、治癒さえすればニーズはみたされることとなる。満腹なのに食事をつづけなければ物理的な限界がおとずれるし、がんが治っているのがんをさらに治そうとする人はいない。(5)

ニーズにはきわめて多様な性格がある(ディーン『ニーズとは何か』)。ここでは、話の煩雑さをさけるために、必要論の原点にかえてふたつのニーズを見てみたい。ひとつは、社会的ニーズであり、いまひとつは個人的ニーズである。

個人的なニーズとは、私的なニーズである。だから、ある人がある状況のもとで個人的に必要とするものであり、それをみたすためにみんなの税を使うことはみとめられない。また、このニーズは市場経済で取引可能なため、欲望の原理にさらされることとなる。

反対に、民主的なプロセスを経てみとめられた、大勢の人に共通するニーズであれば、それは社会的なニーズと考えられ、政府が税を使って保障する対象となる。所得の少ない人、市場経済で取引のできない人であっても保障されるベーシック・サービスは、まさにこれに属する。

歴史に何度かおとずれた危機の時代にシ^(ウ)ョウテン化されたのは、この社会的ニーズだった。命やくらしと直結するニーズがあり、それをみたくない人たちが増えるからこそ、それが社会的ニーズとして認識され、協働の対象となり、その充足のしくみがモ^(エ)サクされるのである。

c 個人的なニーズと社会的なニーズ、これらを厳密な意味で区別することはむづかしい。

たとえば、交通手段や宿泊^(オ)シセツを見てみよう。ある場所にむかうのに、タクシーや自家用車、自転車のどれで移動をするかは個人的なニーズだ。あるいは観光旅行にいったとき、どんな宿に泊まるとしても、それは個人的なニーズである。

ところが、大勢の人びとの移動のためのバスや鉄道は「公共交通機関」と位置づけられ、税が投入される。国民の財産である観光資源をたのしむために、すべての国民が安い値段で宿泊できるようなシセツをととのえれば「国民宿舎」のような公的な機関となり、ここでも税が投入される。いわば、あるニーズが個人的か、社会的かは、そのニーズにどれくらい多くの人たちが共感す

るか、共通して必要と感ずるかによつて揺れうごくわけだ。

だが、ここで重要なのは、両者の厳格な区別ではない。この社会が「欲望」^{ウオンツ}と「必要」^{ニース}のふたつを編成原理としているというこ
と、そしてどのニーズが私的か、社会的かという解釈しだいで、財政のありかたもかわるといふ事実である。だから、これらの
関係がどのように組みかえられていくかを讀みとくことで、縮減の世紀の今後を占うことができるようになる。

(井手英策『幸福の増税論——財政はだれのために』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある)

(注) ^{*1} 世界大恐慌——一九二九年のアメリカ株式市場の暴落が資本主義諸国に波及して起こつた経済恐慌。

^{*2} ソビエト連邦——現在のロシアを中心とする地域に存在した社会主義国家(一九二二—一九九一)。

^{*3} ダニエル・ベル——アメリカの社会学者(一九一九—二〇一一)。

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

5

1

(ア)

カフ|チヨウ

1

- a キフ|ジンのような装い
- b 公費フ|タンで整備する
- c 鉄道をフ|セツする
- d フ|ヘンの的に通じる話だ
- e フ|ソの代からの土地

(イ)

ソ|マツ

2

- a 客にソ|ソウなくふるまう
- b ケン|ソな山道を行く
- c 文をヨウ|ソに分解する
- d ソ|ゼイを徴収する
- e キヨ|ソに気を付ける

(ウ)

シヨ|ウテン

3

- a 喜びで破顔イッシヨ|ウする
- b 論文のシヨ|ウロクを作る
- c シヨ|ウシン苦慮の末の決断
- d 事務レベルでのセツシヨ|ウ
- e 国家権力をシヨ|ウアクする

(工)

モサク

4

a 作文をテンサクする

b 部首サクインを用いる

c タンザクに願いを書く

d 利益の中間サクシユ

e 現実とサツカクする

(オ)

シセツ

5

a 旅館にシシユクする

b 役所にシユツシする

c シヨウ末節にこだわる

d 首相のシセイ方針演説

e ロンシが曖昧な文章

問2 傍線部X・Yの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

X 6

Y 7

X 問いかえすもの

a 論理の難点を突く命題

6

b 自問を迫ってくる圧力

c 考察の契機となる反論

d 論点として提示する視点

e 方法論の示唆となる見解

Y 煩雑さ

7

a 利害関係が強いこと

b 数が多いということ

c まとまりを欠くこと

d 込み入って面倒なこと

e 不愉快極まりないこと

問3 次の一文が入る本文中の位置①～⑤の中で正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

8

しかし、この議論は現実を十分に説明しきれていない。

a (①)

b (②)

c (③)

d (④)

e (⑤)

問4 空欄

I

II

に入る言葉として最も適当なものを、次のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし同じ語を二度用いてはならない。

9

II

10

- a むしろ
- b あるいは
- c したがって
- d だが
- e なぜなら

問5 空欄

i

に入る言葉として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

11

- a 全体主義と社会民主主義、社会保障と共同所有を全て可能とするか
- b 双方を両立させ得る新しい原理を世界中に拡張することができるか
- c 男性中心の家族のありようを、女性中心のものにくみかえていくか
- d 従来の家族の原理を市場の原理に合わせていかに変容させていくか
- e 家族の原理が重要性を増すなか、それをどのように制度化していくか

問6 傍線部A「欲望」、B「必要」とあるが、これらの説明として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ

つ選びなさい。A

12

・ B

13

- A
- a 家族への貢献度や社会的地位、所得の多寡によって充足度が異なる、家族内で再生産される消費需要。
 - b 顕示的欲望を刺激しながら消費需要を再生産することにより、社会全体を支配するに至った消費者心理。
 - c 近代においては、お金で充足するべきとされる、自分の持ち物を見せびらかし、真似をさせたがる心情。
 - d 近代以降、金銭でみたすことが当然とされた、顕示的な欲求に基づく、終わりのない物質的なむさぼり。
 - e 現代では、個人やその家族が得た金銭によってみたすのが当然とされる資本主義社会特有の物質的欲求。
- B
- a 近代においては金銭で充足することがもとめられ、貢献度や地位、収入によらず配分されるべきもの。
 - b 経済成長の妨げとなってしまうている市場取引が不可能な人に与えられるべきベーシック・サービス。
 - c 近代の社会に特有の、市場経済により得るお金の多寡で充足度が異なる、生きるうえで欠かせないもの。
 - d 生きていくうえで欠かすことができず、金銭ではいつまでも充足することがおぼつかない協働の対象。
 - e かつては家族間の協働で充足されていたが、近代社会では金銭でみたすものとされる社会の編成原理。

問7 傍線部C「個人的なニーズと社会的なニーズ、これらを厳密な意味で区別することはむづかしい」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

14

- a どんな社会的なニーズであっても、政府が税を使って充足することをしなければ、それは個人的なニーズとなってしまうから。
- b ニーズが個人的なものか社会的なものかを決定する要因は、客観的なものとはならず、その時々の人びとの感じ方によるから。
- c 個人的ニーズは社会的ニーズに包含されるので、一部の人のにとっては社会的ニーズも個人的ニーズも同じように感じられるから。
- d 社会的なニーズか個人的なニーズかは、その社会の多くの構成員が市場と直結する問題と考えるかどうかによって決まるから。
- e あるニーズが社会的なものとして認定されるのは、個人的なニーズが寄り集まり、多くの人のニーズとみなされたときであるから。

問8 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

15

- a 従来、「母親」に押し付けられてきた命やくらしをささえる営みを、全体主義的に組みかえていくことが、今の我々に課せられた課題である。
- b 近代資本主義社会は、命やくらしをささえる営みを政府に任せ、市場取引され得る自らの欲望の充足を皆が追い求めた社会だったといえる。
- c 近代社会における消費は多かれ少なかれすべて誰かに見せびらかし他人に模倣させることを目的とするため、永遠に充足されることがない。
- d 近代社会において、あらゆるニーズは市場経済で取引可能なものであり、そのため人びとは欲望を充足することに振り回されがちとなる。
- e 縮減の世紀において重要なことは欲望と必要の関係を読み解き、それに基づいて新しい時代の家族の姿を占い創造していくことである。

II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

消費社会によってもたらされる、「現代の疎外」と呼ぶべき事態がたしかに存在している。そして——映画に描かれているほどに陳腐で過激になるかどうかはともかく——この疎外の奥には何か強烈な情念がある。

一般に疎外とは、人間が本来の姿を喪失した非人間的状態のことを指す。かつては「労働者の疎外」が大いに語られた。労働者は、資本家から劣悪な労働条件・労働環境を強制され、人間としての本来の姿を失っているとされた。たとえばマルクスの『資本論』を読むと、いまでは信じられないような労働条件で働く者たちの姿が描かれている。

それに対し消費社会における疎外は、かつての労働者の疎外とは根本的に異なっている。なぜなら、消費社会における疎外とは、だれかがだれかによって虐げられていることではないからである。消費社会における疎外された人間は、自分で自分のことを疎外しているのである。^{*2}ボードリヤールは次のように言っている。「消費社会における」疎外された人間とは、衰弱し貧しくなったが本質までは犯されていない人間ではなく、自分自身に対する悪となり敵に変えられた人間だ」。

なぜそのように言えるのか？ それは終わりのなき消費のゲームを続けているのが消費者自身だからである。たしかに、ある意味で消費者は消費を強制されている。広告で煽られ、消費のゲームに参入することを強いられている。しかし、それは資本家が金にものを言わせて労働者に劣悪な条件で働かせる場合の強制とは異なっている。消費者は自分で自分たちを追いつめるサイクルを必死で回し続けている。人間がだれかに蝕まれるのではなく、人間が自分で自分を蝕むのが消費社会における疎外であるのだ。

ただしここで注意しなければならない。この疎外をただ疎外と名指すだけでは重大な過ちを犯すことになる可能性がある。

「疎外」はかつて「労働者の疎外」として盛んに論じられたけれども、あるときから、むしろ **I** に遠ざけられる概念になつてしまった。なぜそういうことになつたのかというと、この概念がどうも危険だと思われるようになってきたのである。^B どういうことだろうか？

疎外された状態は人に「何か違う」「人間はこのような状態にあるべきではない」という気持ちを起こさせる。ここまではよい。ところがここから人は、「なぜかと言えば、人間はそも、そもは、こ、うでなかつたからだ」とか「人間は本来は、こ、れ、こ、れであつたはずだ」などと考え始める。

つまり、「疎外」という語は、「そもそもその姿」「戻っていくべき姿」、要するに「本来の姿」というものをイメージさせる。これらを、本来性ととか（本来的なもの）と呼ぶことにしよう。「疎外」という言葉は人に、本来性や（本来的なもの）を思い起こさせる可能性がある。

（本来的なもの）は大変危険なイメージである。なぜならそれは強制的だからである。何か（本来的なもの）と決定されてしまうと、あらゆる人間に対してその「本来的」な姿が強制されることになる。本来性の概念は人から自由を奪う。

それだけではない。（本来的なもの）が強制的であるということは、そこから外れる人は排除されるということでもある。何かによって人間の「本来の姿」が決定されたなら、人々にはそれが強制され、どうしてもそこに入れない人間は、人間にあらざる者として排除されることになる。

たとえば、「健康に働けることが人間の本来の姿だ」という本来性のイメージが受け入れられたなら、さまざまな理由から「健康」を享受できない人間は非人間として扱われることになる。これほど **あ** ことはない。

本来性あるいは（本来的なもの）は強制と排除に至る他ない。そして、疎外が盛んに論じられていた頃、あるときから人々は、「疎外」の概念が「本来性」の概念と切り離しがたいのではないかと考えるようになった。それ故に、「疎外」は危険視された。そして用いられなくなつてしまつた。

以上が、「疎外」と「本来性」を巡る諸問題の大きな歴史である。「本来性」の問題点ははっきりしている。そして「疎外」はあるときからその共犯者とみなされるようになった。

i

だが、この歴史を踏まえたいうえで本書は次のように問いたいのだ。たしかに本来性の概念には大いなる問題がある。しかし、だからといって疎外cの概念までも一緒に投げ捨てるべきだったのか？ 疎外が本来性と共犯関係にあることは本当に間違いの

ない事実なのだろうか？　もしかしたら、その共犯関係を見出したとき、論者たちは何か大雑把な議論に甘んじていたのではないだろうか？　一緒にすべきでないものを一緒にして論じていたのではないだろうか？

消費社会が

Ⅱ

に作り出す満たされなごのなかで退屈を感じている人間は、「これは何か違う」「こういう状態にあるべきではない」と感じる。つまり、「疎外」という言葉は口にしなくても、人は疎外を感じるのである。ならば、なぜそれを疎外と名指して論じてはいけないのだろうか？

いや、むしろこう言うべきだ。疎外という概念を遠ざけてしまったなら、この事態をどう扱うことができるのだろうか？　扱えないのではないか？　つまり、思想や哲学が疎外という概念を忌避し始めたときに起こったことは、疎外はもう扱わないということだったのではないか？　要するに疎外概念に本来性概念との共犯関係を見出し、いい気になってこれを糾弾し始めた思想・哲学は、ただ単に、疎外という現実から目を背けていただけだったのではないか？

もしそうだとすれば、そこに生まれていたのは、単なる現状追認の思想・哲学である。

そして実際、疎外の概念を投げ捨てた思想・哲学は、そのようなものになつていたように思われる。

ある悲惨な状況のなかで人が「これは何か違う」「こういう状態にあるべきではない」と感じるのは当然のことである。そう感じられたならその原因を究明し、それを改善するよう試みるべきである。疎外概念はそれを可能にする。

ならば、問題は疎外概念にあるのではない。疎外状況に対する処方箋として、後から本来性の概念が提示されてしまうことにあるのだ。疎外された者に対し、その者の「本来の姿」を提示してしまう、この救済策の方に問題があるのだ。

本来性の概念とともに疎外概念まで投げ捨てるといふのは、

ii

投げ捨ててしまうようなものだ。

退屈、とりわけ現代の退屈は、疎外と呼ばれるべき様相を呈している。ならば積極的にこの概念について考えねばならない。疎外という概念を忌避し続けることは、この現実から目を背け続けることを意味する。

(國分功一郎『暇と退屈の倫理学』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある)

(注) マルクス——ドイツ出身の哲学者・経済学者(一八一八〜一八八三)。本来自己実現の手段であるはずの労働が、労働

者が資本主義のシステムに組み込まれ苦役となってしまふことを「労働疎外」(労働者の疎外)と呼んだ。

*² ボードリヤール——フランスの哲学者(一九二九〜二〇〇七)。

問1 傍線部A「消費社会における疎外は、かつての労働者の疎外とは根本的に異なっている」とあるが、「かつての労働者の疎外」と「消費社会における疎外」との違いの説明として最も適当なものを、次のa〜eの中から一つ選びなさい。

16

- a 「労働者の疎外」は人間の本来の姿を失っている状態をいうが、「消費社会における疎外」は消費を強制されるものの人間性は失っていない状態をいう。
- b 「労働者の疎外」は人間が本来の姿を喪失した非人間の状態をいうが、「消費社会における疎外」は人間が本来の姿までは喪失していない状態をいう。
- c 「労働者の疎外」は人間が他者から強制され蝕まれている状態をいうが、「消費社会における疎外」は人間が一切強制されていないのに蝕まれている状態をいう。
- d 「労働者の疎外」は人間が非人間的な状態を強いられる状態をいうが、「消費社会における疎外」は人間自らが非人間的な状態を選択している状態をいう。
- e 「労働者の疎外」は人間が強制的に労働者にされている状態をいうが、「消費社会における疎外」は人間が自分から消費者になっている状態をいう。

問2

空欄

17

I

II

に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| e | d | c | b | a |
| I | I | I | I | I |
| 社会的 | 歴史的 | 学問的 | 日常的 | 積極的 |
| II | II | II | II | II |
| 示唆的 | 必然的 | 経済的 | 恒常的 | 戦略的 |

問3 傍線部B「どうということだろうか？」とあるが、これについて筆者はどのように答えているか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

18

- a 「疎外」という言葉は本来性や(本来的なもの)を強制的に思い起こさせる可能性があると考えられるようになったということ。
- b 「疎外」という言葉は疎外された状況にある人に「何か違う」という気持ちを起こさせると考えられるようになったということ。
- c 「疎外」という言葉は強制と排除に至る他ない本来性の概念と密接に結びついていると考えられるようになったということ。
- d 「疎外」という言葉は人から自由を奪ったり人を排除したりする概念にはかならないと考えられるようになったということ。
- e 「疎外」という言葉は本来性や(本来的なもの)と結びついて疎外の状態を隠蔽いんぺいすると考えられるようになったということ。

問4 空欄

あ

に入る語として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

19

- a いじましい b おぞましい c かしましい d ものがましい e へだてがましい

問5 空欄

い。 i

20 i

ii

21 ii

に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の a ～ e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- i a ここで、本来性という概念の危険性に目が向けられたのだ
- b あたかも、犯罪者と法の擁護者が同一視されたかのようだ
- c にもかかわらず、疎外のみが糾弾されてしまったのだ
- d そして、いわば同時に逮捕され、罰せられたのである
- e さらに、その脱法行為は黙認され放置されたままなのだ
- ii a 診断結果が正しいかどうかもわからないのに、診断方法を
- b 処方した薬を間違えていたがために、診断結果のカルテまで
- c 病が回復しないのなら、診断内容を検証するという常道を
- d 診断上のミスの責任を取り、医師という重要な立場さえ
- e あまりに重大な診断結果を前にして、確立された治療方法すら

問6 傍線部C「疎外」の概念までも一緒に投げ捨てるべきだったのか？」とあるが、疎外」の概念を投げ捨てた結果どうなったのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

22

- a 消費社会における疎外」の状況から目を背け、消費社会を肯定する哲学・思想が主流になった。
- b 消費社会に退屈していた消費者たちがあるべき本来の社会を求めて立ち上がるようになった。
- c 疎外」状況に対する処方箋として提示された本来性の概念が論者から忌避されるようになった。
- d 消費社会から疎外」の状況が消え、消費者たちはこの消費社会に退屈を感じるようになった。
- e 疎外」概念を糾弾し始めた思想・哲学が、それに代わる本来性の概念を提示するようになった。

問7 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

23

- a 「疎外」の概念と「本来性」の概念との共犯関係を糾弾して、疎外」のない社会に目を転じなければならない。
- b 消費者たちが消費社会に退屈したりしないように、終わりなき消費のゲームを彼らに提供しなければならない。
- c 哲学・思想は、疎外」と呼ばれる様相を呈する消費社会は本来どうあるべきなのかを考察しなければならない。
- d 消費社会における退屈の問題を解決するために、哲学・思想は「疎外」に代わる概念を提示しなければならない。
- e 消費社会によってもたらされた疎外」の状況を正視するためには、「疎外」の概念を呼び戻さなければならない。

注 意 事 項 続 き

4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。マークは**HB・B**の鉛筆(シャープペンシル可)で濃くマークしなさい。解答用紙を折ったり曲げたりしてはならない。

例えば

2


 と表示のある問に対して **c** と解答する場合は、次の(例)のようにマークシートの**2**の**解答欄**の**c**に**マーク**しなさい。

指定欄以外へマークした場合は解答が読み取れなくなる場合があるため、記入しないこと。訂正は、消しゴムできれいに消すこと。

(例)

解答 番号	解答欄				
	a	b	c	d	e
1	(a)	●	(c)	(d)	(e)
2	(a)	(b)	●	(d)	(e)

(マークの仕方)

良い例	悪い例
●	

5 試験終了後には、問題冊子の上に解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。

6 問題冊子は持ち帰ること。